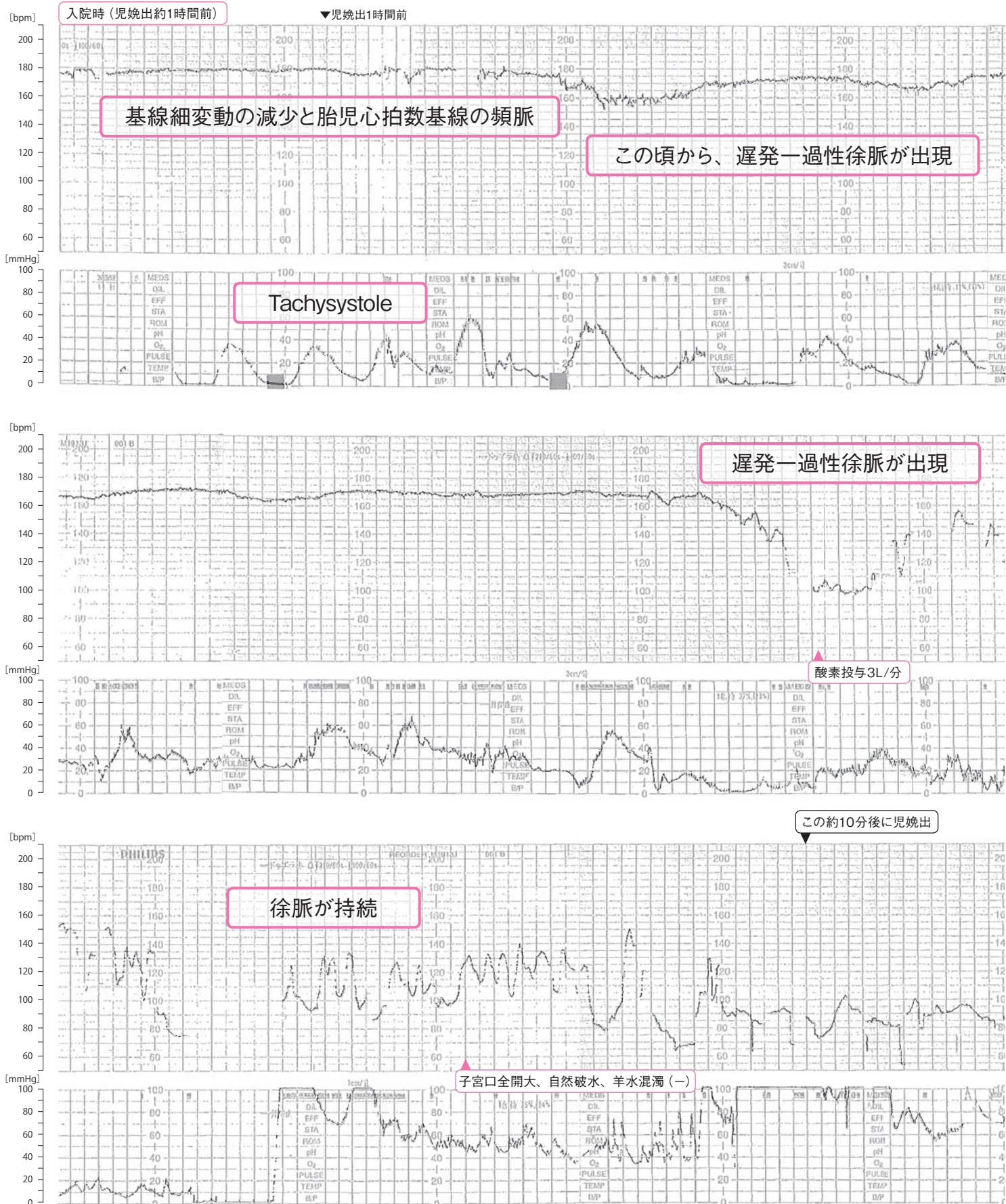


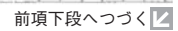
図4-III-6 子宮内感染を発症した事例①

事例の概要

在胎週数37週、経産、陣痛発来のため入院、入院時内診所見（子宮口開大度3cm、胎児先進部下降度-2）、母体体温（最高値）：36℃台前半、GBS陰性、抗菌薬投与なし、前期破水なし、胎児頻脈あり



クリステル胎児圧出法を併用した吸引分娩、羊水混濁なし、破水から児娩出まで約15分、胎盤病理組織学検査：実施なし、出生体重：3700g台、アプガースコア1分後4点/5分後8点、UApH=6.9台、BE≒-11mmol/L、新生児血液検査所見（白血球数=35000台、CRP≒0.6）



遷延一過性徐脈が出現

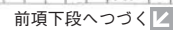
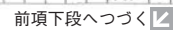
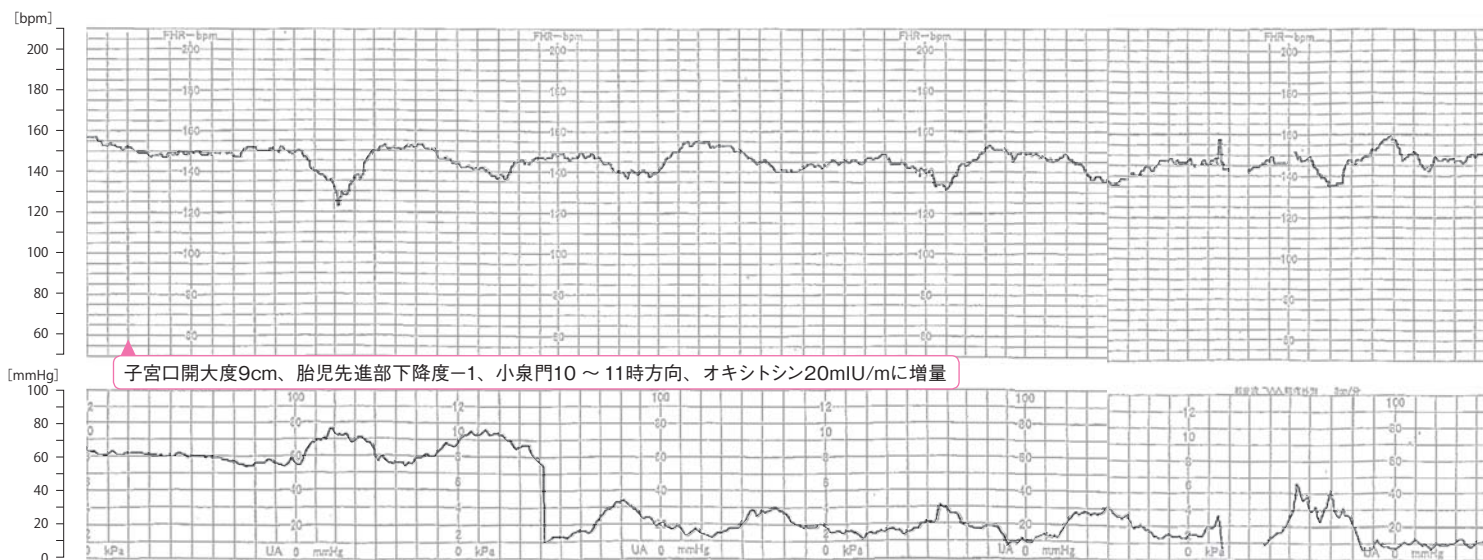
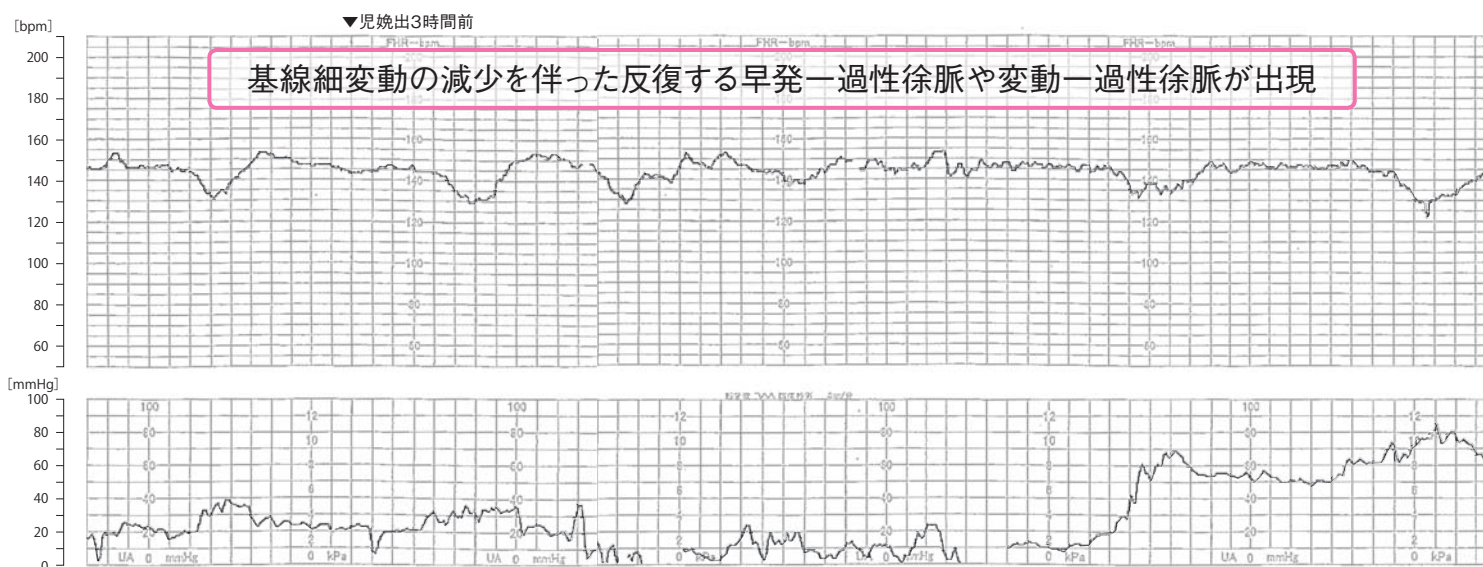
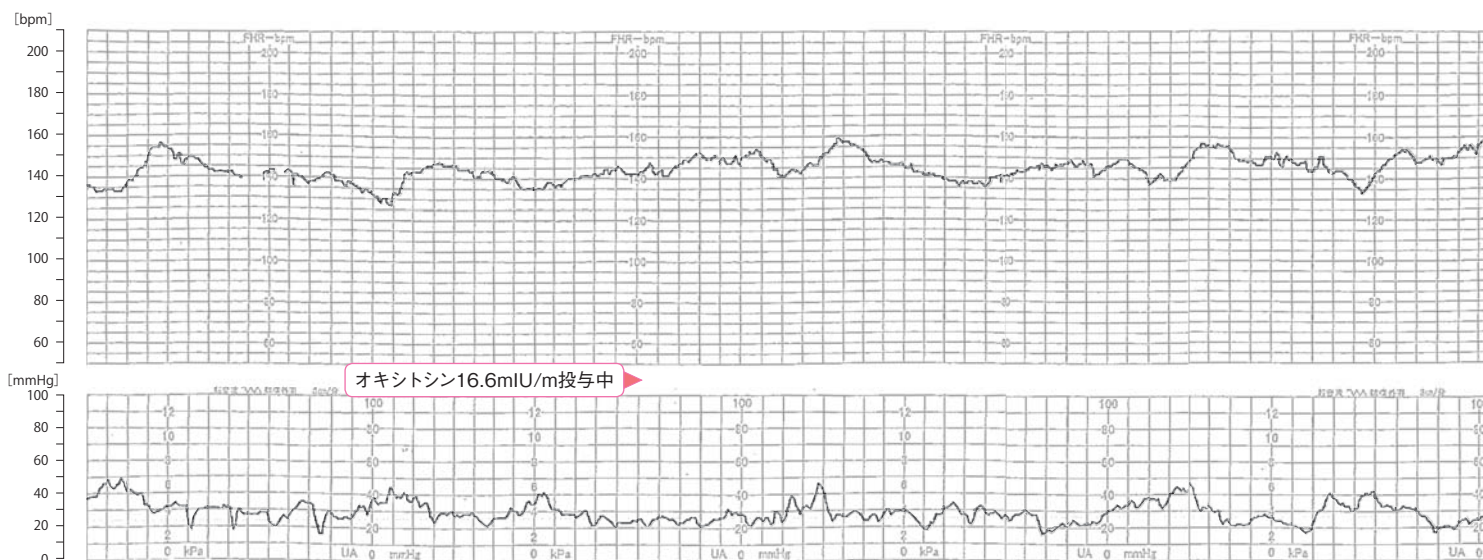
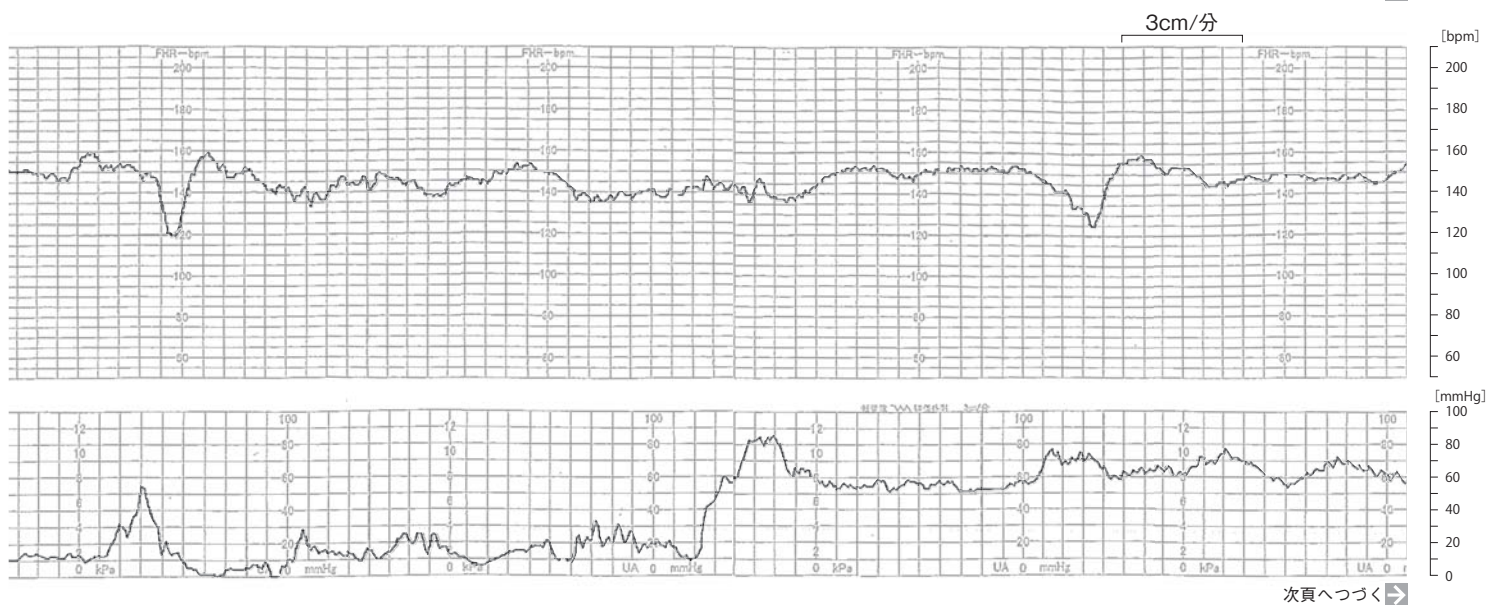
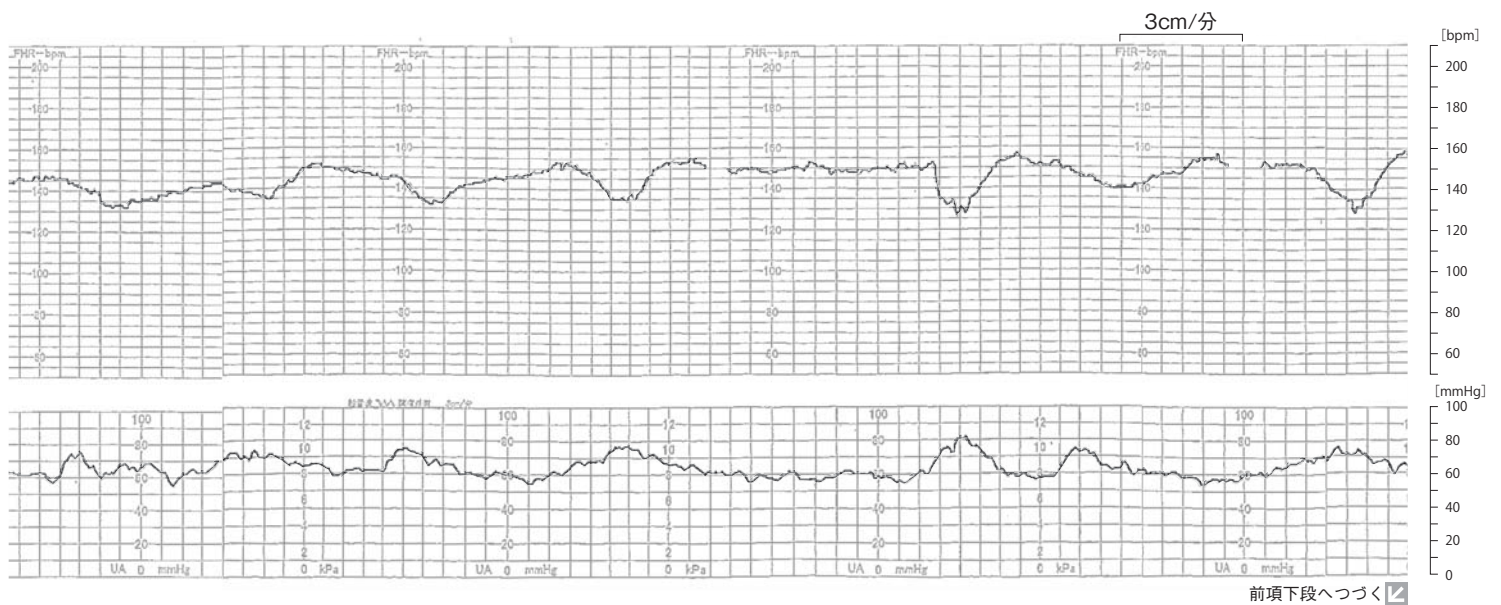
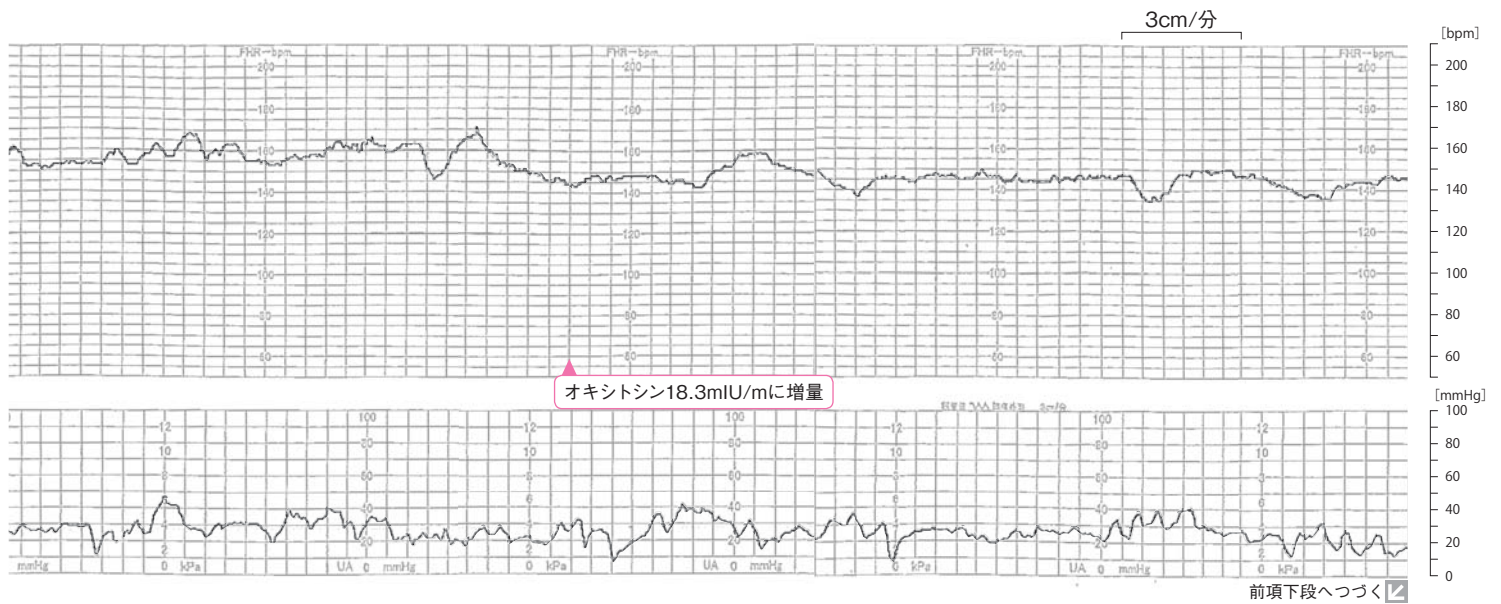


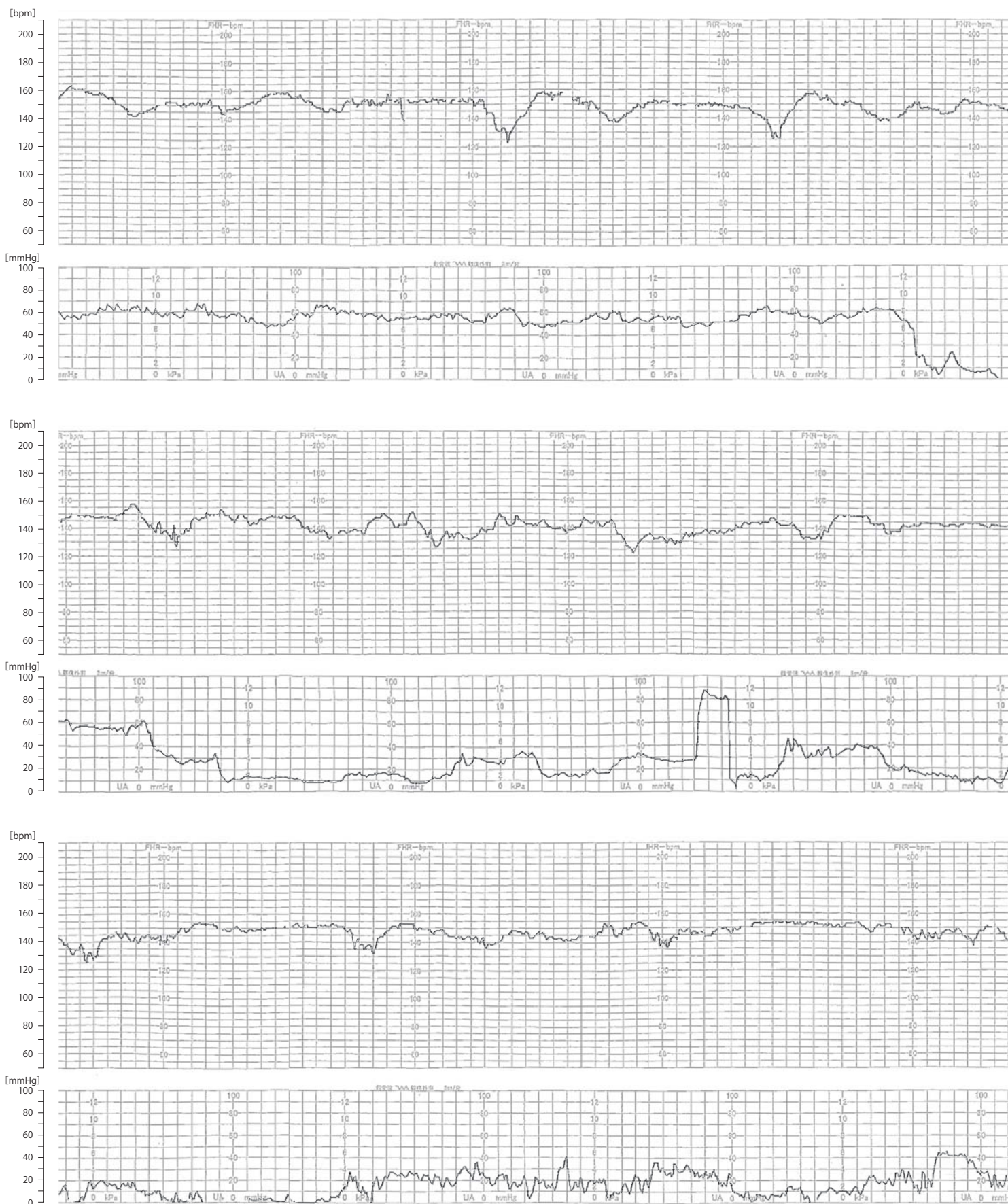
図4-III-7 子宮内感染を発症した事例②

事例の概要

在胎週数41週、初産、翌日陣痛発来のため入院、前期破水なし、
入院時内診所見（子宮口開大度2cm、胎児先進部下降度-2）、母体体温（最高値）：37℃台後半、GBS陰性、
抗菌薬投与なし







児娩出2時間前▼

3cm/分

[bpm]

200
180
160
140
120
100
80
60

[mmHg]

100
80
60
40
20
0

前項下段へつづく▶

3cm/分

[bpm]

200
180
160
140
120
100
80
60

[mmHg]

100
80
60
40
20
0

前項下段へつづく▶

3cm/分

[bpm]

200
180
160
140
120
100
80
60

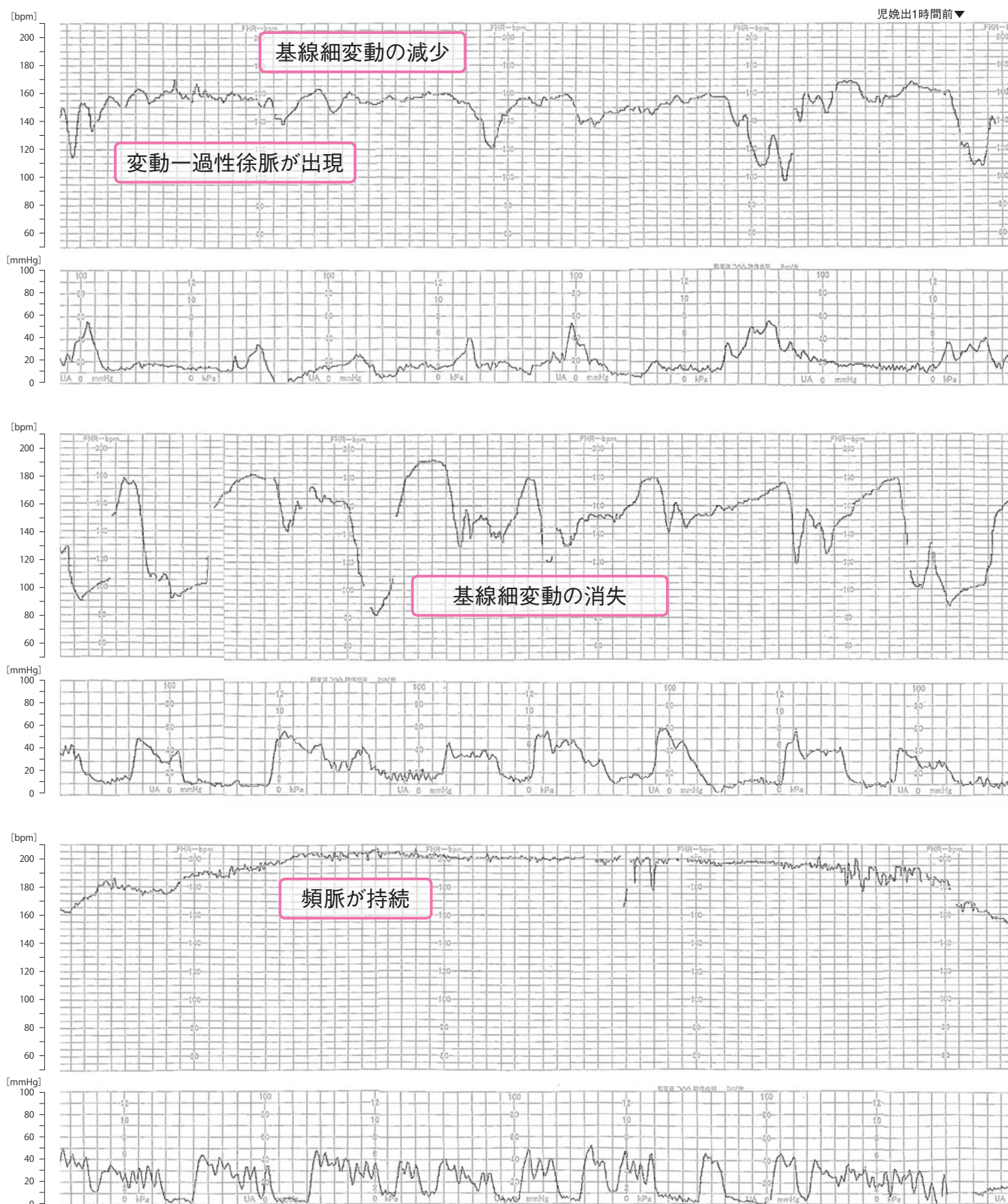
[mmHg]

100
80
60
40
20
0

次頁へつづく▶

左側臥位

一過性頻脈が徐々に減少



分娩
情報

自然経膈分娩、羊水混濁あり、破水から児娩出まで約4時間、胎盤病理組織学検査:Ⅲ度の絨毛膜羊膜炎・臍帯炎、
出生体重:2700g台、アプガースコア1分後6点/5分後6点、UApH=7.1台、BE≒-10mmol/L、
新生児血液検査所見(白血球数=20000台、CRP≒2.2)

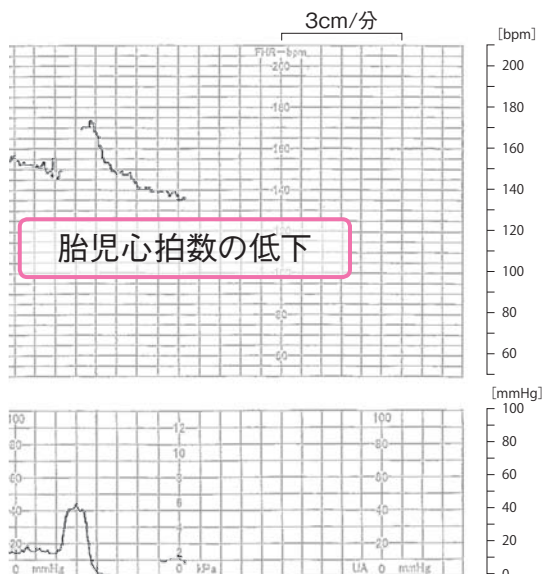
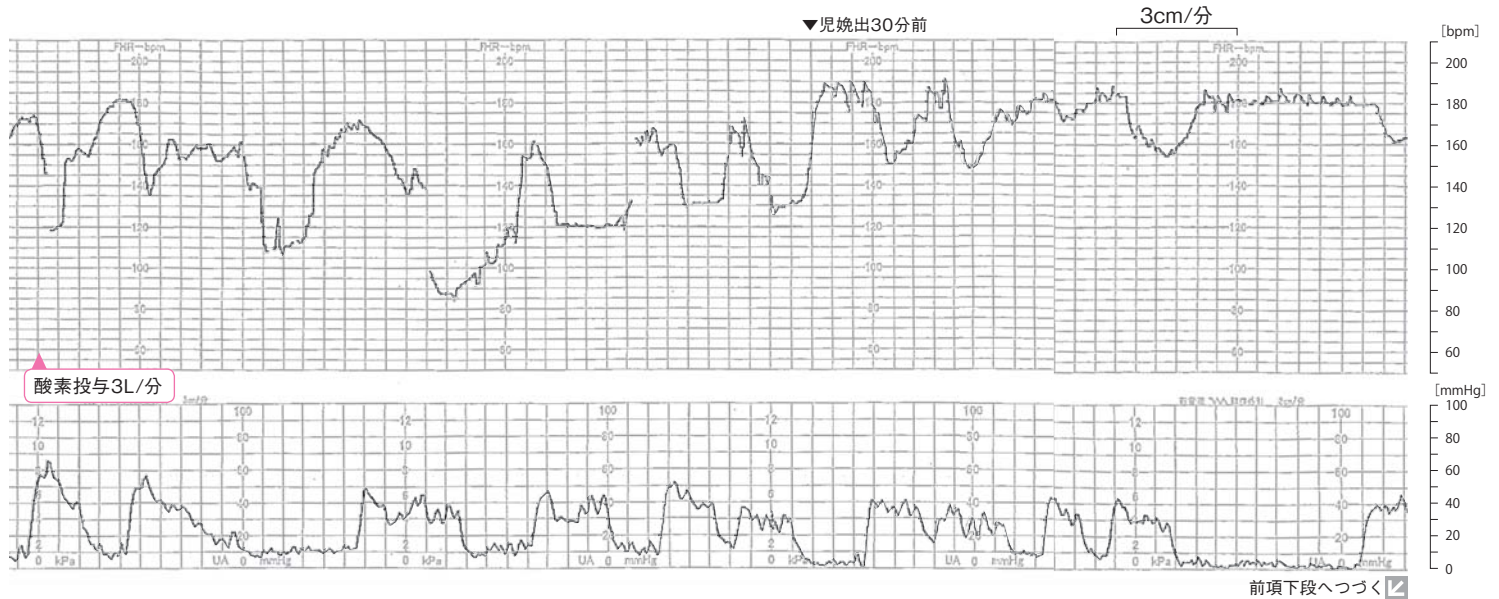
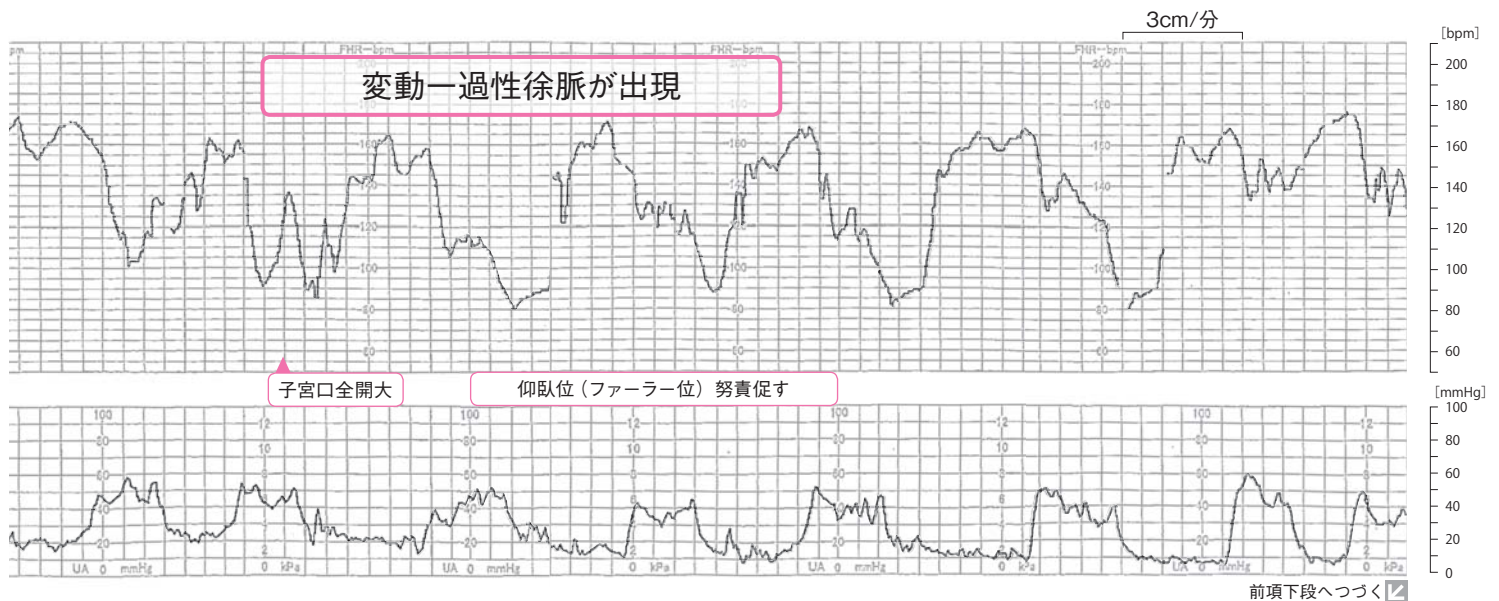
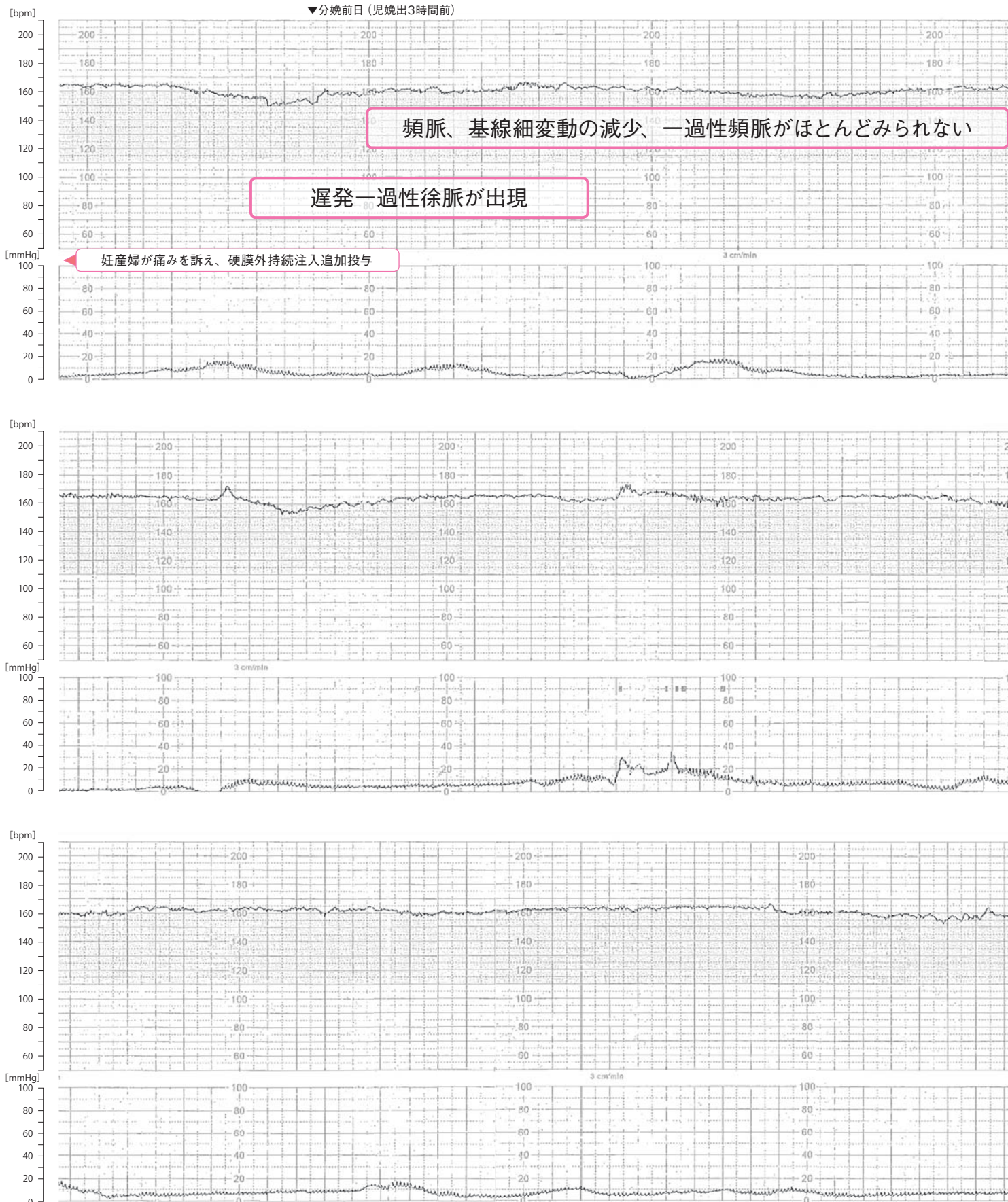
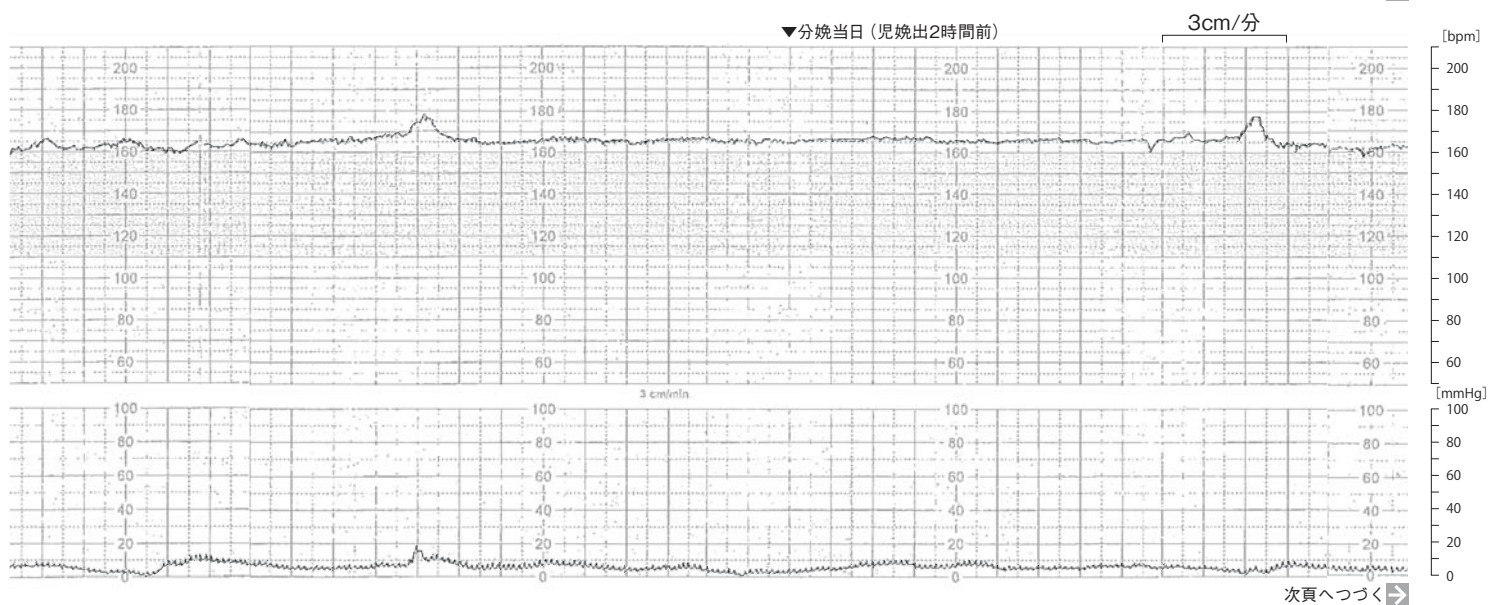
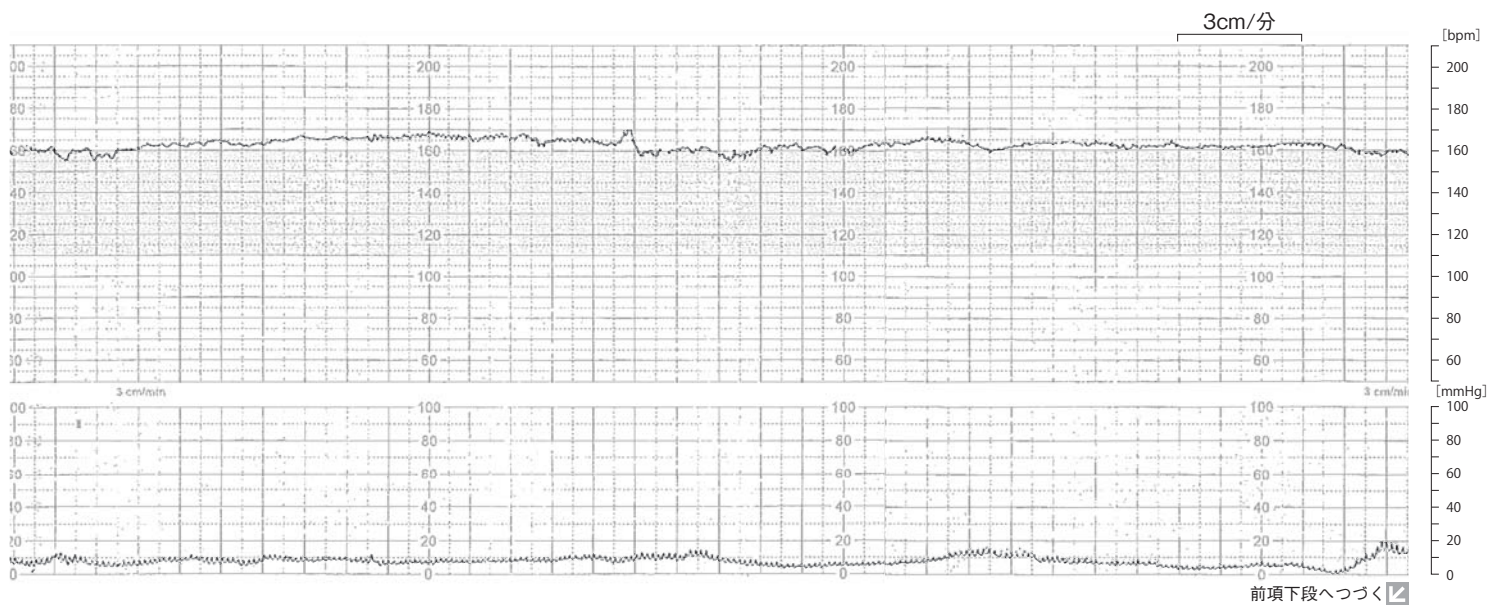
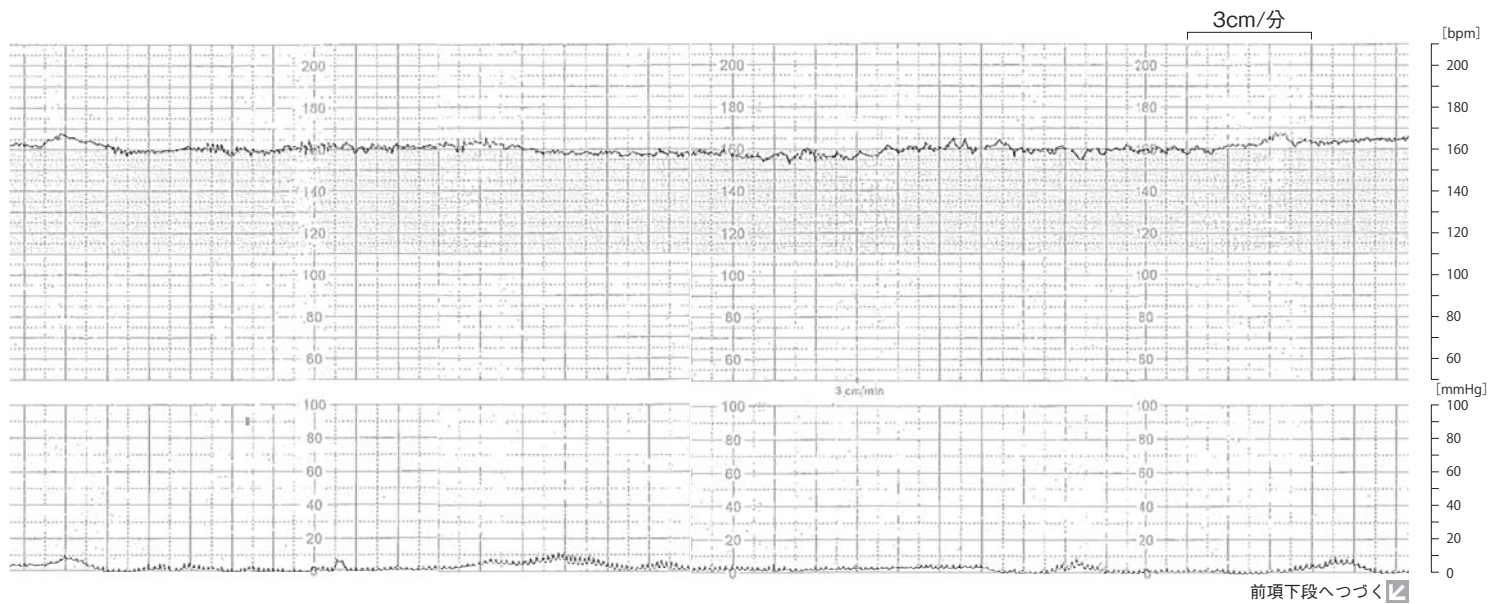


図4-III-8 子宮内感染を発症した事例③

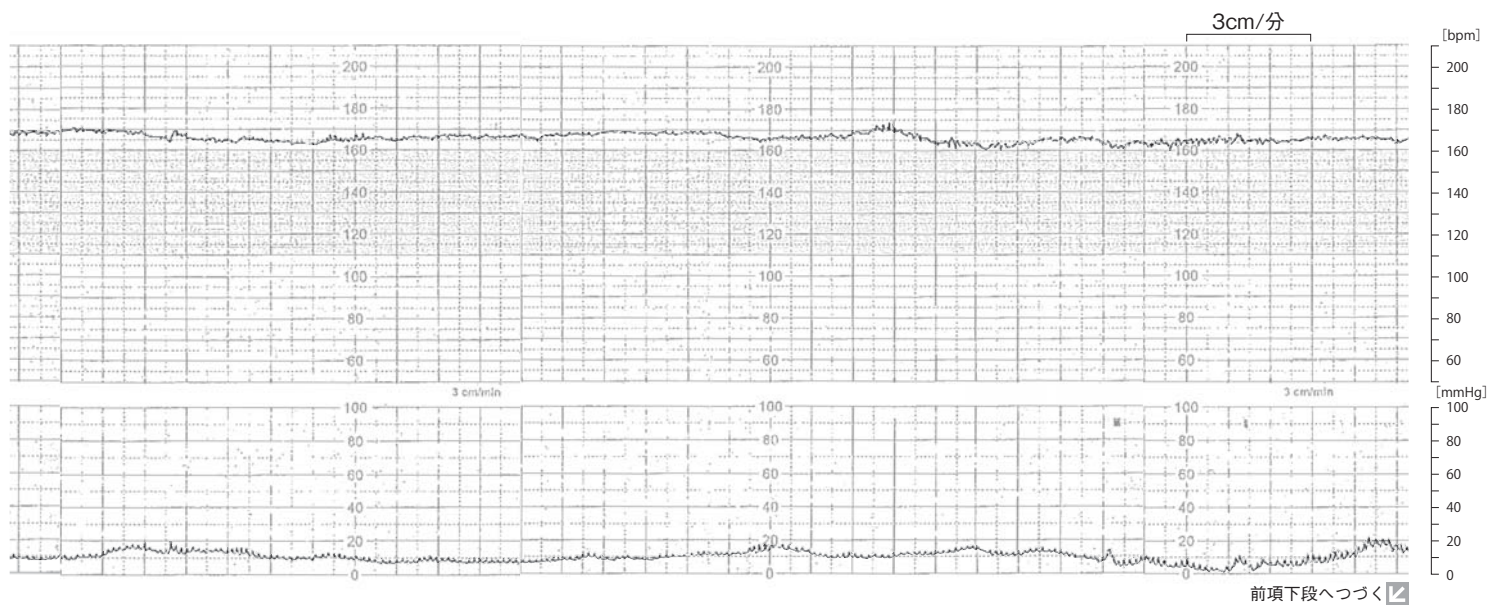
事例の概要

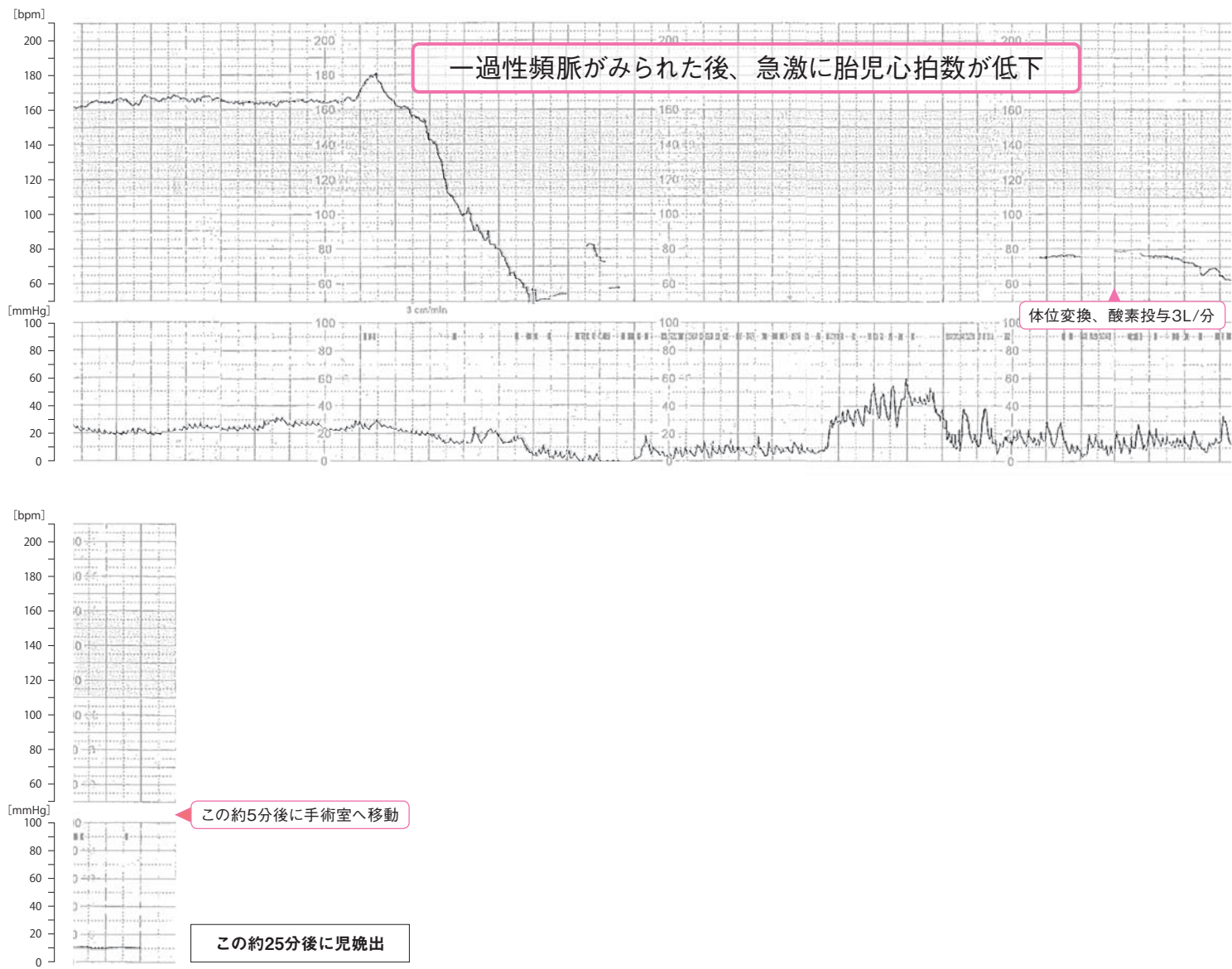
在胎週数41週、初産、分娩誘発のため入院、入院時内診所見（子宮口閉鎖、胎児先進部下降度-3~-2）、入院2日目より硬膜外無痛分娩開始、母体体温（最高値）：38℃台前半、GBS陽性、抗菌薬投与あり、前期破水なし、母体血液検査所見（白血球数=8000台、CRP≒5.4）











分娩
情報

緊急帝王切開術、羊水混濁なし、破水から児娩出まで約11時間、胎盤病理組織学検査:実施なし、出生体重:3100g台、
アプガースコア1分後1点/5分後4点、UApH・BE=実施なし、新生児血液検査所見(白血球数・CRP=記載なし)、
新生児細菌培養検査:大腸菌検出

